

鉢物トルコギキョウの基肥一発施肥による施肥管理技術 (4号、5号鉢仕立て)

研究のねらい

鉢物トルコギキョウは初夏を中心に生産が行われ、夏場の出荷品目としては単価も安定しています。また、「母の日」のカーネーションやアジサイなどの後作としても有望な品目です。

しかし生産現場では、開花期の葉の萎れや株の倒伏などの生産ロスが多く課題となっていて、この原因の一つとして施肥管理が考えられます。現在、粒状化成や液肥を主体として栽培されますが、根やけや根張りが少ないなどの症状が見られます。

そこで、これらの症状の改善のため、被覆肥料(温度反応型被覆複合肥料)※1の利用による基肥一発施肥により、高品質で生産ロスが少なく、追肥作業の省力が可能な施肥管理技術を確立しました。

技術の特徴

1 4号鉢仕立て

- (1) 施肥は4号鉢定植時に行います。まず、鉢の半分の深さに用土※2を詰め被覆肥料を均一に施用し、その後また用土を詰め定植を行います。その後は、灌水のみの管理となります。
- (2) 6月出荷での被覆肥料の施肥量は「サファイアブルーチップ」、「サファイアピンクリム」とともにリニア(商品名:ロン

グ)100日型またはシグモイド(商品名:スーパーロング)70日型を鉢あたり7gです。



写真1 施肥及び定植の様子(4号鉢仕立て・1株植え)

- (3) この施肥管理により、慣行の施肥体系と比較し、根量が多く、萎れにくくボリュームと草姿バランスの優れた鉢物が生産できます。また、葉先の黄化斑点症状も少なくなり商品性も向上します。

2 5号鉢仕立て

- (1) 施肥は3号ポット鉢上げ時と5号鉢定植時に行います。3号ポットへの鉢上げ時は、鉢の半分の深さに用土※2を詰め被覆肥料を均一に施用し、その後また用土を詰め苗を鉢上げします。5号鉢への定植時は、鉢に植え穴の型を開け、被覆肥料を均一に施用し、その上に3号ポット苗を定植します。その後は灌水のみの管理となります。



写真2 「サファイアピンクリム」の開花時の状況(4号鉢仕立て)
(左からリニア100日型4g、7g、10g、シグモイド型70日型4g、7g、10g、粒状化成区、液肥区)

県の試験研究機関で開発した最新の技術情報を紹介します。

(2) 6月出荷での被覆肥料の種類および施肥量は次のとおりです。

① 3号ポット鉢上げ時

「ティラミスパープルピコティー」、「ピンクピコティーサム」とともにシグモイド（商品名：スーパーロング）70日型を鉢あたり3g施肥します。

② 5号鉢定植時

リニア（商品名：ロング）70日型を「ティラミスパープルピコティー」では10g、「ピンクピコティーサム」では14g施用します。

(3) この施肥管理により、慣行の施肥体系と比較し、枯死株が少なく、萎れにくい、また、ボリュームと草姿バランスの優れた鉢物が生産できます。

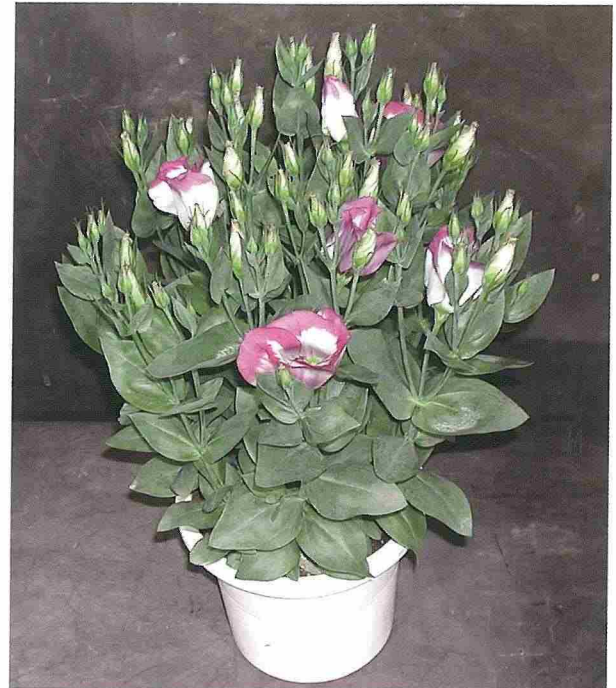


写真5 「ティラミスパープルピコティー」
(5号鉢仕立て)



写真3 3号ポットへの施肥及び鉢上げの様子
(5号鉢仕立て・4株植え)



写真4 施肥及び定植の様子 (5号鉢仕立て)

※1 コーティング肥料とも呼ばれ、施肥後初期から肥料が溶出し始めるリニア型と施肥後一定期間肥料の溶出を抑制した後、急激に溶出が始まるシグモイド型の2種類があります。

※2 用土は、4号鉢、5号鉢ともに赤土40%：ピートモス40%：パーライト10%：バーミキュライト10%の割合で作成しています。また、土壌改良材として炭酸苦土石灰をピートモス1Lあたり8g、BMようりんを赤土1Lあたり10g添加したものを使用しています。

(執筆者：小林 智彦)

今後の取り組み

基肥一発施肥技術は、品質向上や作業の省力化を可能にする技術であり、今後も関係機関との連携を行いながら、品目選定や技術の検討をしていく予定です。